

飛蚊症について

青空や白い壁をふと見た時に、虫のような黒い影に気付いたことはありませんか。

「あれ、これ何なの、蚊かな」と追いかけると、動いてしまうことでびっくりします。これがいわゆる「飛蚊症」です。

眼の中にある硝子体にわずかな濁りができて、その影が網膜に映るため見えます。追いかけて眼を動かすと、一定のところではなく少しずつ動いて見えます。でもしばらくすると元のところへ戻ってくるのが特徴です。

飛蚊症は放っておいても問題のない生理的なものと、治療を要する病的なものの2種類があります。

生理的な飛蚊症のほとんどは加齢によるものです。年齢とともに、硝子体が収縮して、少しずつ網膜から外れることが原因です。

病的なもので一番心配なのは、網膜に裂け目ができたり穴があいたりする「網膜裂孔」です。これを放っておくと網膜剥離に進行してしまふことがあり、レーザー治療などの早急の処置が必要です。硝子体が収縮するときに網膜と癒着しているところを引っ張って裂孔ができてしまうことが原因です。同時に血管を引っ張ってしまふて出血を起こした時には赤い飛蚊症が起こることがあります。

その他に糖尿病や高血圧などで眼底出血を起こした時も飛蚊症になることがあります。

このように飛蚊症は放っておいて心配のないものかどうかを見極めるためには早めに眼底検査をすることが大切です。気付いたら眼科受診することをおすすめします。

2019年3月

米本 壽史